

誇れる景観を目指して！色決めを行いました

建物の外壁などの色は、施設を印象づける大切な要素です。

メロープラザは、緑豊かな田園や里山の風景と調和するよう、外壁などの色を自然環境と調和する色彩（アースカラー）で統一することを景観計画にまとめ、基本計画・基本設計に盛り込みました。

このたび、塗装作業に伴い最終的な色決めを行うこととなり、市職員をはじめ、設計者、施工者、さらには設計者選定プロポーザルの委員を務めた藤江通昌先生など関係者が集まり、工事現場内に設けたコンクリート製の色見本を前に、周辺の街並みへの影響や塗装の仕上がりなどを確認しました。

この施設を設計した(株)昭和設計の鳥居さんと高木さんは、景観計画の内容を色見本や模型、写真などを使って丁寧に解説してくれましたが、巨大なメロープラザのできあがりイメージすることは、かなり難しい作業でした。

また、藤江先生からは、景観づくりは10年後、20年後をイメージすることが大切であるとのアドバイスがありました。

こうしたことから、完成当初は本施設の存在を引き出しつつも、次第に周辺の景観と同化していけるよう、フライタワーや一部外壁の色を強調することとしました。

浅羽支所周辺では、本施設をはじめ、浅羽会館の跡地をエントランス広場として整備するなど、一体的なまちづくりを推進しています。

将来、市民の皆さんが誇りに感じる景観となるよう整備します。



実際の壁と同様のコンクリートに塗装した色見本です。太陽の光り方によって色合いが違って見えるため、確認作業は屋外で行います。



南部地域の一体的なまちづくりに向けて、平成21年6月にランドデザインとなる「浅羽支所周辺地区整備実施計画」を策定しました。このイラストは、20年から30年後の未来をイメージしました。景観づくりは長期的な取組によって実現します。